

[佳 作]

「北方領土を考える」

北海道教育大学附属札幌中学校

1年 星 智樹

初めて僕が北方領土という言葉にふれたのは、小四の頃に、祖母と留守番していた時、たまたまニュースを見ていて「北方領土って何の事」って聞いた記憶があります。祖母は昔、樺太に住んでいて、第二次世界大戦中に本国に逃げてきたそうで、「樺太も北方領土と同じ日本の領土だったんだよ」とその様子を交え戦争の悲惨さを、つぶさに教えてくれました。そして、もう二度と足を踏み入れることが出来ないロシア（旧ソ連）の国になっていることを知りました。その時の祖母の表情は、とても悲しい顔になっていたと思います。この度、この作文を書いてみて、本当に四島返還がいつか実現出来るかと思わずにいらませんでした。この夏休みをきっかけにいくつかの疑問をまとめてみました。

北方領土とは？択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島のことで第二次世界大戦直後にソ連軍によって不法占拠されたことで、現在はこの領土にロシアの人々が暮らしています。何故北方領土の返還を日本は追いつけているのか？何故なら、もともと私たちの祖先が心血を注いで開拓した我が国固有の領土だからです。不法占拠されたままの北方領土は戦後70年余りを過ぎても今なお、この問題解決の糸口が見えないのか？日本政府の取組として平成15年1月に日ロ両国の首脳により合意された「日露行動計画」に沿って進められており、平和条約を締結するための交渉を、加速することを確認されていることがわかりました。また、北海道が行っている取組には、道内外の啓発活動やビザなし交流の推進などの環境整備を進めているそうです。北方領土から引きあげてきた元島民により組織されている団体の千島連盟では、返還要求運動の中核となって、さまざまな活動に取り組んでいることも知りました。元島民の高齢化が進行していることもあって、外交交渉が加速され一日も早い領土返還が実現できるよう力を注いでいることも知りました。

ふと祖母がもらした「おばあちゃんも生きてるうちに一度は故郷に戻ってみたいね。1年生だったから家の間取りも覚えているよ。」と言っていたのがよみがえりました。かつて北方領土に住んでいた島民の人達も同じ思いで生きていると思います。僕は、色々と北方領土について調べるうちに、この問題は日本だけのものではなく、今住んでいるロシアの人達のこととも考え、両国がお互い尊重し合い協力し合うことが大切だと感じました。そして、早い解決の道を見出してほしいと願わずにはいらませんでした。これからの僕達のなすべきことは、このような悲劇を作らないためにも、戦争のない世界を築いていく努力をしていきたいと強く思いました。